

機能性成分の同定及び作用機構の解析

- がん・免疫疾患の抑制に関わる食品成分とその効果 -

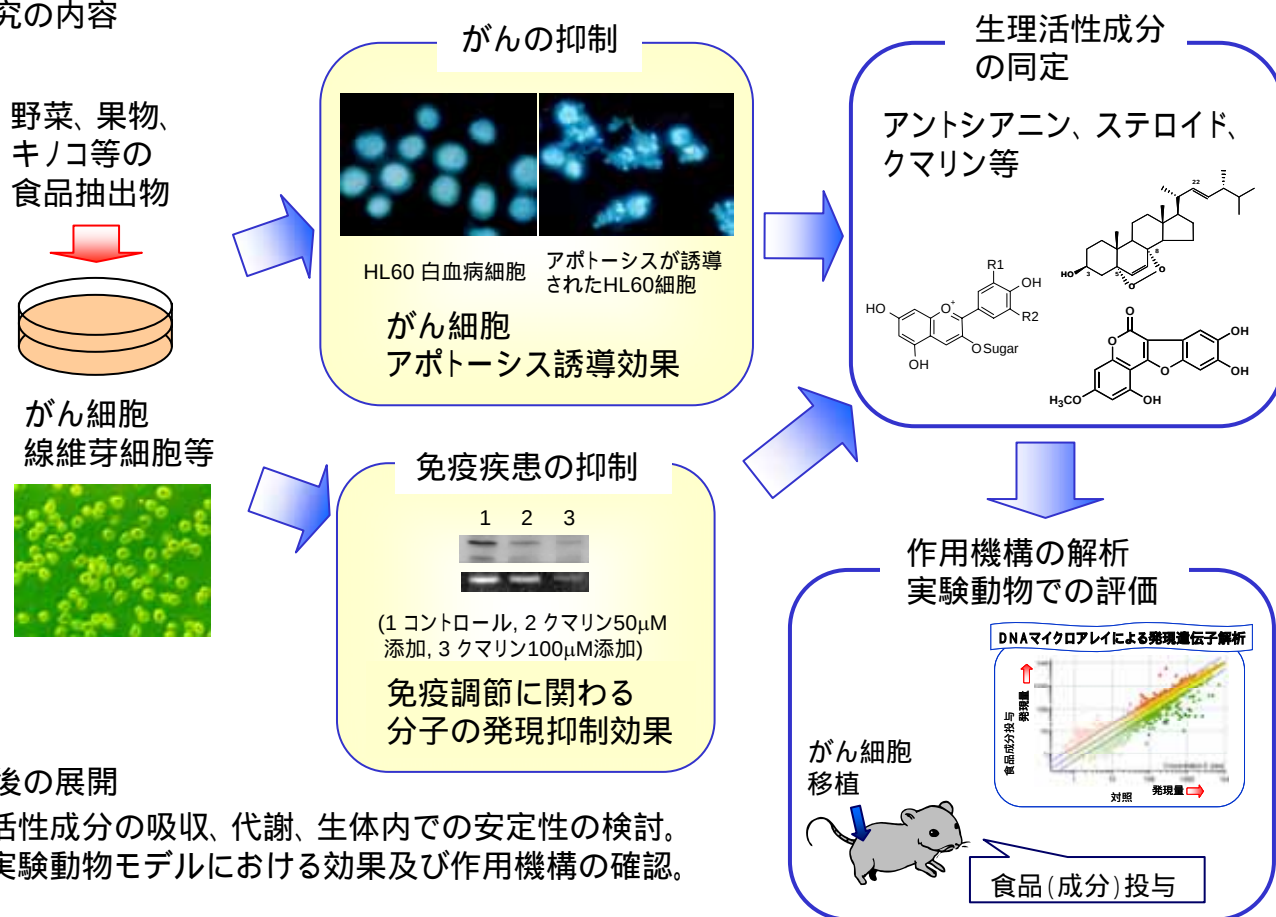
技術の特等

がんや免疫・炎症性疾患等の予防や軽減に関わる食品成分を培養細胞を用いたモデル系により検索し、その評価を行っている。

これまでに、がん細胞の増殖抑制効果やアポトーシス誘導効果を示すアントシアニン、ステロイド等の成分を明らかにすると共に、過剰な炎症反応の抑制に関わるクマリン誘導体を明らかにした。

更に、発現遺伝子解析等により細胞内作用発現機構の解析を行い、がんや免疫疾患の予防に効果的な食品成分の摂取及び利用法の解明を目指している。

研究の内容



今後の展開

活性成分の吸収、代謝、生体内での安定性の検討。
実験動物モデルにおける効果及び作用機構の確認。

参 考

- 1) Takei, T., Yoshida, M., O-Kameyama, M., Kobori, M. Ergosterol peroxide, an apopt-osis inducing component isolated from *Sarcodon aspratus* (Berk.) S.Ito. *Biosci.Biotechnol. Biochem.*, 69(1), 212-215 (2005).
- 2) Kobori, M. et al. Wedelolactone suppresses LPS-induced caspase-11 expression by direct inhibiting the IKK complex. *Cell Death Differ.* 11(1), 123-130 (2004).
- 3) Katsube, N., Kobori, M. et al. Induction of apoptosis in cancer cells by Bilberry (*Vaccinium Myrtillus*) and the anthocyanins. *J. Agric. Food Chem.* 51, 68-75 (2003).



代表研究者:小堀 真珠子

所 属:食品機能部 機能成分研究室

問合わせ先:〒305 - 8642

茨城県つくば市観音台2 - 1 - 12

独立行政法人
食品総合研究所